

総務文教常任委員会会議録

(令和4年8月8日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和4年8月8日(月)
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	那須芳人

欠席委員

委員 吉村直城

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長 本多幸雄 局長補佐 小松一恵

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査
 「へき地における学校教育の調査研究について」
- (2) その他

開会 17時56分
閉会 18時10分

○尾崎副委員長 皆さんお疲れさまです。残り、あと時間割いて、今日のそれぞれのまとめを、会をこれから始めます。委員長、御挨拶をお願いします。

○石川委員長 今日はお疲れさまでした。6名の出席をいただきまして、1名欠席ということでございますが、行政視察、無事に終わりました。

つきましては、皆さんの御意見を賜っていききたいというふうに思っております。

9月の定例会で、所管事務調査の報告をさせていただくために、皆さんの御意見を頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、もう時間もちょっと遅くなっていますので、池田委員のほうから。

○池田委員 なかなか有意義でした。もう大変やけどやっぱり地域との、地域の協力がないと、なかなか大変やなということと、職員さん、あれだけの人数でやっておられるということで、そんなに、業務大丈夫だっという話ではありましたが、なかなか苦勞されているんじゃないかなと。

それと、廃校になった高市小学校、いろいろと利用計画はあるようですが、いづこも同じような問題を抱えているんじゃないかと思いました。

以上です。

○石川委員長 ありがとうございます。

金繁委員。

○金繁委員 すごくチャレンジングなことを大分前からされてきていて、地域の方たちはもちろん、行政の方たちも大変、手間暇のかかる事業だと思います。

で、一方で、あそこは寮、全部寮に入る学校ということなんですけれども、家族ごと移住のような形で留学するっていうケースが増えているという資料も頂いて、福浦、愛南町内でも福浦小学校、それから家串小学校で移住者が、若い人が来ているという話もありましたので、もちろん都会で田舎に移住したいっていう人はどんどん増えているので、これから期待できる事業ではないかなと、地域を活性化していく上で一考していただきたい事業かなと思いました。

以上です。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 今日の山村留学制度、じかに砥部町に行っているいろいろ聞いたんですが、私が最初思っていたのとはちょっと違っていたようで、この山村留学制度が今一番その僻地の課題となっている人口減少問題対策、これに少しはこの制度が貢献をしているのかなというふうに感じて行ったんですが、話を聞いてみると、なかなかその人口は減少して、いない、逆に減っていると。

そして、今、金繁委員が言ったように、家族ぐるみの移住ですか、それも、そういった成果もない。そして、1年間留学し卒業した児童が500人ですか、おるけど、それもなかなか接点がないと。ふるさと納税の件も、那須委員も言っていましたけど、後のつながりがちょっと乏しいと。

じゃあ一体何のための山村留学なんかなというふうに感じました。もう少し運営方法を考えて、卒業した後もつながりを持てるような、そして関係人口もどんどん増えていくような、そういった卒業後の政策というのが私は重要ではないかなというふうに感じておりますので、これが果たして、今のその砥部町のやり方がどうなのかなと、私はちょっと疑問を持った感じを受けました。

以上です。

○石川委員長 ありがとうございます。

那須委員。

○那須委員 今回の視察先は、僻地学校存続のための一つの方策であったのが、その高市小学校も廃校になり、砥部町だけではないんですけれど、どこも少子化ということで、たどる道は一緒なんだろうなというふうな気はしておりました。

で、愛南町がもしあいった制度を取り組むとすればどうしたらいいかなというふうに今日

帰りながらちょっとふと思ったんですけれども、留学センターみたいな施設は建てる必要はないし、私は、535人のせっかく砥部町に行ったしがらみもそんなに強くないのであれば、むしろ、愛南町のおじいちゃんおばあちゃんが、都会にいる孫を、小学生の孫を、面倒を見ると、そのための支援金あるいは補助金の制度をして、愛南町の小学校に通ってもらおうというような方法をすれば、これは子供も見慣れたおじいちゃんおばあちゃんのところでもあるし、で、その親御さんも、まあ共働きのところも都会では多いだろうから、安心して任せられるということで、むしろその山村留学センターみたいなところで一括してその職員さんが見るよりも、愛南町ですとすれば、そういう方策も一つあるかなというふうに感じました。

以上でございます。

○石川委員長 尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 ほとんど私も皆さんの考え、同じようなところばかりなんですけど、高市小学校の廃校対策、利活用対策という思いで山村留学センターをつくったということが非常に印象に残っております。

で、この廃校、この山村留学センターによって、これを何とか人口減少対策の移住者の誘致のほうにつなげることができるのではないかなと、個人的にはそれにチャレンジするべきではないかなと思ったんですけど、行政のほうとしてはまだそういう思いはないというところがちょっと残念かなと思っております。

あと、子供たちの集団生活の場という位置づけで山村留学センターを運営しているということなんですけれども、今後はよく問題になっておりますスマホ等の使い方、そういったことも全面禁止ではなくて、時間を決めて使わすとか、そういった形のものを取り入れて、生活指導の一環にされてはどうかというふうな思いはいたしました。

以上です。

○石川委員長 ありがとうございます。

私のほうは、この山村留学が、統廃合、閉校になるということで、高市小学校校区の村会議員の方が動かれて、地域と一緒にこの山村留学制度を平成4年から立ち上げたということで、目的はまあ、統廃合を地域としては認めないので、継続してほしいという思いで立ち上がっている事業だというふうに認識はしました。やりようによっては、単年度で募集をかけて、継続もありなんですけども、やりようによっては私は砥部町のファンを増やすことも可能性としてはあるなというふうに思いました。

また、施設についても、過疎債使って、一般財源は2,600万円ほど使っているということなんですけど、運営費についても、普通交付税ですか、それが83万5,000円と、1人当たり38万5,000円、年間、それをもってすれば何とかとんかなというふうな状況みたいですが、ただ、指導員も足りていない状況なので、財源的にはちょっと厳しいのかなというふうに見ました。

愛南町も、那須委員も言われたように、ふるさと納税をどんどん増やしていくような方向で、愛南町のファンを増やすということを考えれば、そういう可能性もあるし、やりようによってはまた移住の足がかりに、一つの方法としてはできるんじゃないかなというふうに私は考えています。

以上です。

原田委員。

○原田委員 取りまとめは正副委員長にお任せしますので、よろしく願いいたします。

○石川委員長 ただいま原田委員のほうから、取りまとめは正副委員長のほうでお願いいたしますということなんですけど、皆さんよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 ではそういうことで、取りまとめはそういうことにします。

で、24日に全協があると思うので、それまでにちょっと取りまとめて、もう一回その内容を確認していただいて、とは思っています。24日の日にできればその取りまとめを見ていただいて、御意見いただいたらというふうに思いますので、それでよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 いいですか。

○尾崎副委員長 では、以上をもちまして、本日の会は終了します。お疲れさまでした。

委員長